



「Takagi Bonsai Museum」

#Ichigaya-TOKYO/ text:Nagano Hiroko

市ヶ谷駅からほんの数分の所にあるビルの屋上に、樹齢500年を経た五葉松の盆栽「千代の松」がひっそりと佇んでいる。ワラと粘土という江戸時代の製法で作られた昔ながらの土堀に囲まれたこの日本庭園は、4000点以上の器、盆栽の描かれた数々の浮世絵、500点もの貴重な天然の盆栽を集めた高木盆栽美術館の見所でもある。

美術館の事務局長、折居興二氏は「盆栽は、人間のエゴで大きな木を無理矢理小

さく育てるイメージがありますが、本物の盆栽は、岩山のわずかな窪みに溜まった上に種が飛んできて育ったものです。これらの木は、日照りや大雪に耐え抜いた生命力の強い木であり、ここにあるのはほとんどがこうした山採りです」と説明する。曲がりくねった枝は、風や雪により自然に曲がったもので、前述の「千代の松」は明治初期に東北蔵王の岩壁から採取され、1年のうちの大半が雪に埋まっていたために自然に幹は曲がり、枝が下がっている。

盆栽をどう見るかは、根張り、幹の立ち上り、枝配り、葉性といった性質、鉢と飾

り台のバランスなどの視点があるが、一番大事なことは、その木がどんな所に生育していたのか想像力を働かせることだという。「盆栽は、目で見るのではなく心で見るものです。遠い昔、この木が岩山に張り付いていたときに風が吹き太陽が照りつける光景、また、子供たちが夕焼けのなか、木の下を走り回っている情景など、さまざまな景色が時空を超えて見えてきます。」

山採りの木は高く売れることから、明治時代にはすでに取り尽くされ、現在では上は何億円もするという。美術館のオーナーでもあり明光商会の社長でもある高木禮



小さな樹からアイデアが生まれる

photo: Nakamura Tohru (mermaid)

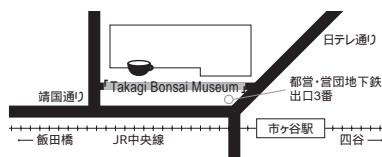
二氏は、20歳のときから50年の歳月をかけて趣味で盆栽を収集してきたが、これらのコレクションを日本文化の遺産として残すために財団法人の美術館を開館した。室内展示は1週間ごとにすべて中身を替えるが、これは室内では日が当たらず、風も吹かないため盆栽が代謝しないからである。折居氏は「霧吹きや加湿器を置き、夜は屋外に出すなど、盆栽は美術館のなかでもっとも手間がかかります。だけど、今まで1本も枯らしたことがないのが私たちの誇りです。そのためか、毎週見に来る人や、海外からの客が多いですね」と語った。



2階のティーラウンジでは飲み物を飲んだり、盆栽に関するビデオを見たりしてつろぐことができる。



江戸末期の細工装飾法である「芝山象嵌」の飾り棚。象牙、珊瑚、貝細工をあしらったため細やかな細工に圧倒される。



住所：東京都千代田区五番町1-1
TEL：03-3221-0006
入館料：800円(学生500円) 飲み物つき
開館時間：10:00am ~ 5:00pm
毎週月曜日(祝日の場合は翌日)が休館日
www.bonsaimuseum.org



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp